

7. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のボランティア・NPO活動センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やSNSなどの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたるため、幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことからセンターでは、ボランティア活動を推進していくために、社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフを対象に様々な研修の機会を提供しています。

この他、学生スタッフミーティング（毎週開催）や、教育職員・事務職員・学生スタッフでのボラセン会議（ほぼ毎月開催）において、学生や教職員からの企画等の提案について意見交換を行います。さらに、教職員で構成する正式な学内組織であるセンター委員会には、学生スタッフ代表がオブザーバー参加しています。こうした会議への参加やセンターの運営への参画は、学生スタッフ育成として大きな意味を持ちます。

事業名	2022年度新入生歓迎行事（深草）			
活動日程	2022年4月1日（金）～6月23日（木）			
活動場所	深草キャンパス内			
参加人数	学生スタッフ29名、ガイダンス参加者73名			
企画メンバー （学生スタッフ）	濱田 葵（文学4） 喜多真央（文学3） NGUYEN NGOC THUC（文学3） 大原健太郎（経営3） 松本裕生（政策3） 山下陽菜乃（文学2） 馬越友梨（文学2） 小倉未椰（経営2） 奥田真史（政策2）	早川歩伽（文学4） 崇田ゆきの（文学3） 馬場康世（文学2） 小木曾圭太（経済2） 影裡天音（経営2）	竹内祐人（法学4） 岡 智浩（文学3） 三野涼介（経済3） 宗森公希（法学3） 太田雄斗（文学2） 神月麻伽（文学2） 水口璃々佳（経済2） 白井秀実（経営2）	井関萌乃（文学3） 西村柊哉（文学3） 松本航紀（経営3） 伊野涼雅（政策3） 松嵜和奏（文学2） 的場美佳（文学2） 榎 海斗（法学2）

1. 経緯・目的

新歓活動を通して、新入生にボランティア・NPO活動センターと学生スタッフについて知ってもらい、興味をもってもらうことを目的として実施する。

主に、①新スタッフの募集、②新入生向けのセンターの利用促進活動（センター事業への参加やボランティア相談で来室するなど）を実施する。

2. 概要

〈2月〉

新歓責任者の決定。

〈3月〉

①新歓で使用するチラシを作成し、中央執行委員会へ提出。

②ガイダンス用パワポの作成、新歓に向けてのオリエンテーションで新歓メンバーに確認してもらい、修正を重ねる。

- ③立て看板やサンドイッチ看板、ブース上の看板作成。
- ④新歓での諸注意の再確認と、ガイダンス用のパワポを新歓メンバーに確認してもらうための新歓に向けてのオリエンテーションを実施。
- ⑤新型コロナウイルス感染症対策のため、新歓活動を開始する2週間前から各自で体調管理表を記入。
- ⑥今後の広報活動のために、深草の学生スタッフ有志で運営するインスタグラムを開設。

〈4月〉

- ①新歓活動期間（学内チラシ配り）
4月1日（金）～6日（水）※土日含む
内、ブース設置日4月5日（火）、6日（水）



- ②ガイダンス後のアンケートを作成

〈ガイダンス〉

開催方式…対面（センター内）

開催日時…4月11日（月）、13日（水）、
19日（火）、25日（月）、27日（水）、
5月10日（火）各12時45分～13時
15分／17時00分～17時30分
4月15日（金）、21日（木）、
5月12日（木）各12時45分～13時
15分



〈6月〉

- ①新学生スタッフ間、また学生スタッフとの親睦を深めるための1、2回生合同ミーティングを実施
- ②コアメンバーの振り返りを Google フォームで実施

3. 参加者の声・得られた効果など

Google フォームを使用してガイダンス後にアンケートを行い、学生スタッフについての理解度と感想を記入してもらった。

〈理解度〉

ガイダンス参加者にアンケートを実施。

「本日のガイダンスを受けて、学生スタッフについて理解できましたか？」

※5（めっちゃできた!!）～1（全然できなかった...）

目標：理解度平均4以上を目指す

回答数73名

結果 5：47名、4：24名、3：1名、2：1名、1：0名
理解度平均 4.6（小数第2位で切り上げ）

全員から評価4以上を得ることはできなかったが、理解度平均は4.5以上と想定よりも高い評価を得ることができた。

〈ガイダンス参加者の感想〉

- ・すごく丁寧な説明で分かりやすかったです。学生スタッフと普通にボランティアに参加することの違いを知りたかったので、参加出来て良かったです。ありがとうございました！
- ・具体的に活動内容が分かり、参加しようと決めました。ありがとうございました。
- ・ボランティアという言葉だけで気になって来ましたが、詳しく優しく教えてもらい、とても分かりやすかったです。
- ・分かりやすい説明で当初のイメージよりも堅くないことを知れて良かった。

4. 学んだこと・今後の課題

〈準備期間〉

- ①もう少し早くから準備を始める。
※12月中に新歓責任者を確定し、冬休み明けには初回ミーティングを開催するとよい。
- ②役割分担をもっと明確にしておく。
- ③個々人にもっとフォーカスして仕事を振っていく。

④ガイダンスだけでなく、交流会などほかの企画を実施してもよかった。

<新歓期間中>

①新生が多い時間帯を把握してシフトを組む。

②広報活動を早くから行う。

※2月から始めるのが理想。

③チラシをとにかく渡そうという気持ちが先行してしまいがちなので、丁寧に配るのを心掛ける。

④ブースにも何枚か説明用のチラシを置いておく。

<ガイダンス>

①説明する量が多く、参加者が飽きている印象を受けた。

②学生スタッフの説明と職員さんの説明で同じ内容のものが多かった。

③昼休みのガイダンスは時間に余裕がなく参加者と交流する時間もとれないので開催する時間をもう

少し考えておくべきだった。

④説明だけでなく交流する時間も取り入れる。

⑤説明する学生スタッフ同士の面識があまりない場合があったので、学生スタッフ間の交流も事前に行っておく。

<新歓を通して>

①責任者を決めて準備を始める期間をもう少し早くするべきだった。

②責任者は新歓経験がある上回生が行う方がよいかもしれない。

③結果として、ガイダンスには73名が参加し、今年度から1回生9名、2回生7名、3回生2名もの新学生スタッフが加入した。おおむね成功といえるだろう。

<報告者：榎海斗>

事業名	2022年度年度新生歓迎行事（瀬田）			
活動日程	2022年3月1日（月）～6月3日（木）			
活動場所	瀬田キャンパス内			
参加人数	ガイダンス参加者61名			
企画メンバー （学生スタッフ）	家原美月（社会4） 片岡克望（社会3） 中西亮太（社会3） 平石陽菜乃（農学3） 李 鵬祥（社会3） 小池日和（社会2） 三枝亜伽莉（農学2） 丸山汰一（農学2）	一色剛滉（社会4） 高橋慶多（社会3） 中山美代子（農学3） 堀井涼花（農学3） 池本結希菜（社会2） 小上馬怜美（農学2） 中村あや（社会2）	杉山わかな（社会4） 深木真人（社会3） 鳴海彩紀（農学3） 松村優輝（農学3） 亀田暖人（社会2） 幸山悠太（社会2） 成川雅妃（社会2）	安原拓真（社会4） 谷垣美幸（農学3） 美野田愛（農学3） 川口克基（社会2） 松村春華（社会2）

1. 経緯・目的

新生にボランティア・NPO 活動センター（以下、センター）での活動についての広報を行い、共に活動する仲間を増やす。

2. 概要

以下の4つの班に分かれて行った。

(1) ブース班

- ・新歓ブースに来てくれた人へのセンター紹介
- ・ブース用の備品の準備（垂れ幕の作成やフリップの確認など）
- ・チラシ配り・ブースの参加メンバー募集、シフト作成

・ブース出展日：4月3日・5日

（3日は雨天のため中止）

(2) ガイダンス班

- ・ガイダンスでの進行・説明
- ・ガイダンス日程の調整、配布資料の準備
- ・応募メールの受付・対応
- ・ガイダンス日程

【対面／昼休み】4月12日・21日・27日、
5月2日・6日・12日

【オンライン／17時～】4月18日、5月10日

(3) 広報班

- ・新歓チラシの作成・配布（1000部強）
- ・Twitter、Instagramでの広報：「センターに入って良かったこと」というテーマで学生

スタッフ紹介を行う。

(4) 交流会班

- ・交流会の運営
- ・交流会に向けた準備（スライド作り・各ゲームの準備・応募フォームの作成・日程調整など）
- ・交流会日程

【対面】学生交流会館カンファレンスルーム

4月27日、5月6日（4限）

【オンライン】5月13日（5限）



3. 参加者の声・得られた効果など

学生スタッフの増加とセンターの広報を目的に取り組んだ結果、17名もの新スタッフが加入してくれた。また、ガイダンスの参加者も61名と多く、新歓チラシと広報誌は各1000部以上を配りきったことからセンターの広報効果はあったと言えるだろう。

以下、各班の振り返りと新スタッフの声をまとめたものである。

(1) ブース班

- ・フリップを使ったことで分かりやすく発表できた。
- ・チラシ配りやブースで説明をしたことで、ガイダンスへの多くの人の参加に繋がった。

(2) ガイダンス班

- ・ほとんどの日程を対面で実施したため飛び込み参加も多く、たくさんの人にガイダンスを受けてもらった。
- ・質問タイムを設けたことでより詳しくセンターについて知ってもらえた。

(3) 広報班

- ・チラシを黄色にしたため、配ったかどうかがわかりやすかった。
- ・SNS 広報は他の学生スタッフも巻き込んで全体で活動できた上、センターを知ってもら

い、良い印象を持ってもらう機会にもなった。

(4) 交流会班

- ・ジェスチャーゲームなどで積極的に合流ができ、楽しんでもらえた。
- ・学生スタッフ SNS を見て参加してくれた人もいた。

4. 学んだこと・今後の課題

(1) ブース班

- ・ブース出展日をよく考えた方が良かった。新入生があまりいなかったり、雨で中止になってしまったりした。
- ・チラシを全て配りきれなかったため、目標や配ったチラシの数を全体で共有したら良かった。

(2) ガイダンス班

- ・反射を防ぐため模造紙にスライドを映したが、かえって見にくくなったので、ホワイトボードに映すか貼り方を工夫すればよかった。
- ・授業などで担当者が準備時間を取れず開始が遅れることがあったので、班以外の学生スタッフに協力を呼びかける必要があった。

(3) 広報班

- ・イベントの日付を大きく書くなど、チラシの書き方を見やすくすべきだった。
- ・学生スタッフ紹介のツイートを投稿する時間をあらかじめ決めておくべきだった。

(4) 交流会班

- ・参加者が少なく、ドタキャンも多かったため、前日にリマインドメールを送るべきだった。
- ・ギリギリまで準備をしていたので、計画を立てて進めるべきだと感じた。事前にはリハーサルも行うべきだった。

全体的に準備不足が目立った。今回の新歓はほとんどの活動を対面で行えたが、主体となる現3回生は対面での新歓の経験が乏しく、どんな活動をし、どんな手順で進めるのかといった計画がうまく立てられなかったように思う。

コロナ禍で前例を参考にすることが難しくなっている今、自分たちで何をするかから考えることが求められることが多い。だからこそ計画をしっかり立て、事前準備を十分に行わなければいけないのではないかと感じた。

また、それぞれの班についての進捗共有が十分でなかったために必要な連携が取れていなかった。各

班の班長同士が情報を共有するような仕組みを作っておけばよかったと考える。

〈報告者：中山 美代子〉

事業名	学生スタッフオリエンテーション 2022 学スタって約100人おるねん。オリテで目指せ、ボラセン Legends ～Z世代真夏の大冒険～
活動日時	2022年6月26日(日) 10時00分～17時00分 ※事前に「センター理解」動画視聴期間あり
活動場所	深草キャンパス22号館302・303教室
参加人数	57名
企画メンバー (学生スタッフ)	喜多真央(文学3) 西村柊哉(文学3) 三野涼介(経済3) 高橋慶多(社会3) 中山美代子(農学3) 堀井涼花(農学3) 馬場康世(文学2) 太田雄斗(文学2) 水口璃々佳(経済2) 松村春華(社会2) 丸山汰一(農学2) 三枝亜伽莉(農学2)

1. 趣旨・目的

学生スタッフオリエンテーションは、新スタッフにボランティア・NPO 活動センター(以下センター)の活動内容や学生スタッフの役割を理解してもらい、これからに活かせる経験を作り出す場である。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったが、昨年度は感染対策に留意しながら対面で実施した。センターの学生スタッフの役割について全員が改めて認識し、これからの活動に向けて新しい気づきを得るものとした。

2022年度は「新学生スタッフは基本の理解、上回生は基本の再確認とステップアップ」をテーマとし、それぞれのワークごとに以下の目標を設定した。

- コーデワーク：自分なりのコーデを見つけること
- コミュニケーションワーク：
 - コミュニケーションにおける双方向性とリアクションの大切さに気づくこと
- プレゼンワーク：各自が課題を認識し、プレゼンが上手くなりたいと思えるようになること

以上の目標の達成を目指し、本オリエンテーションを実施した。

2. 企画概要

「センター理解」の動画を事前に視聴した上で、導入ワーク、コーデワーク、コミュニケーションワーク、プレゼンワークの4つのワークを行った。各ワークの最後に、コメントを記入した付箋を模造紙に貼ってもらい形で感想や意見の共有を行った。さ

らに、参加者には良いと思ったコメントにシールを貼ってもらった。

○導入ワーク

「Live! アンケート」を用いて「センター理解」動画の理解度クイズと、プロフィールシートをペアになった相手と交換し、気になったことを質問し合う学生スタッフの自己紹介ワークを行った。

○コーデワーク

来室者対応の一例の動画を視聴し、ペアで実践を行った後、模擬コーデを見て気付いた点や改善点などについてグループで話し合い、全体で共有した。今後のコーデの個人目標を決め、目標を書いた用紙を学生スタッフ Handbook に綴じた。

○コミュニケーションワーク

ヒーロー役がインタビュアー役から質問を受け、その内容に答えるヒーローインタビューと、雪山に遭難した設定で、生き残るためにチームでの合意形成を目指すコンセンサスゲームを行い、順位を競った。話し合いを通して、一人で考えるよりも正解に近づくという経験をした。

○プレゼンワーク

段階を踏んだ4つのワークを行った。入門編は、2種類のワークを通して相手と共有できる資料の重要性等に気づいてもらった。次に実演を織り交ぜた講義形式で、プレゼンで話す時のコツを4つの項目に分けて学んだ。その後ペアでテーマに沿って質問を行う質問ワークと、前で話している人に対するリアクションをなるべく多く取るワークを行い、聞き方のコツを学んだ。最後に3名グループと9名グループで「今日の学び」について1分ずつプレゼ

ンをする実践ワークを行った。

○クロージング

本オリエンテーションの趣旨・目的の再確認と、付箋に書いてもらった感想と意見の紹介をした。そして、コアメンバーと職員が締め挨拶をし、オリエンテーションを終了した。



3. 参加者の声・得られた効果

オリエンテーション研修の参加者に Google フォームで作成したアンケートに回答してもらう事で効果測定を行った。目標達成度や積極的に参加できたか?の項目では、5段階評価ですべて平均4以上と高評価となった。このことから今回のオリエンテーション研修の目標は達成でき、今後の学生スタッフ活動につながるものになったと考える。以下は、ワーク別のアンケートの回答の一部である。

○導入ワーク

- ・いろいろな人とプロフィールの紙を使い交流する中で、初めて会う人にどう接するのが良いのかを考えることは大切だなと感じた。

○コーデワーク

- ・ペアになった人が良かった点、改善点などを細かくフィードバックしてくれたので今後のコーデに役立ちそうだった。お互いのキャンパスの違いなども知れて良かった。

○コミュニケーションワーク

- ・自分の意見を言うだけでなく、相手から発言を引き出したり、相手の意見を聞いて相手も自分も納得できるように合意形成したりすることの大切さを学べた。

○プレゼンワーク

- ・振り返りによって、自分の改善すべきところが分かった。

4. 学んだこと・今後の課題

○コーデワーク

1回目のリハーサルでは流れの確認や、他コアから意見をもらい、2回目のリハーサルでは細かな所を確認することができた。準備段階で班内での共通認識が乏しかった。ミーティング参加にあたり各自で準備してくること、こまめに共有をすること、計画性を持つことが大切だと学んだ。

○コミュニケーションワーク

ワークを楽しいものに出来たと同時に、その中で参加者が発言していない人に話を振ったり、自分の意見を積極的に言っていたりと双方向性や積極性を意識した行動が見られて良かった。

グループワークが多く、初対面同士の学生スタッフがいるとワークが円滑に進まないときもあり、見回りでもっと声かけをすれば良かった。

○プレゼンワーク

プレゼンワーク以前のワークを踏まえた上で最後の実践ワークに臨めたという意見が多かった。入門編ワークで準備の大切さに気づき、話し方・聞き方の姿勢について学んだうえで最後にプレゼンを実践するという段階を踏んだことで、企画した側の狙いが伝わったと感じた。

資料の完成が本番直前になってしまい、全体的に余裕がなかった。スケジュールを管理し、細かく締切を設定することで改善できると感じた。

○全体を通して

長い準備期間中、メンバー全員が同じモチベーションで取り組むことは難しかった。リハーサルに対する意識も異なり、全員の都合が合う日で調整したにも関わらず、参加できない人もいた。また準備物について、担当者だけで準備をしたことによりミスが生じたため複数人でチェックする必要性を感じた。

〈報告者：三野 涼介〉

事業名	夏研修2022 BORASEN NO OWARI～壊して見せろよその BAD HABIT～		
活動日時	2022年9月15日（木）10時00分～17時00分		
活動場所	深草キャンパス22号館302教室		
参加人数	28名		
企画メンバー (学生スタッフ)	岡 智浩（文学3） 馬越友梨（文学2） 小倉未椰（経営2）	松本航紀（経営3） 太田雄斗（文学2） 榎 海斗（法学2）	伊野涼雅（政策3） 鄭 叡智（国際3） 神月麻伽（文学2） 的場美佳（文学2） 長堂佑志（法学2） 松田理莉緒（経済1）

1. 趣旨・目的

今年度の前期では、春研修やオリエンテーション研修を通して、学生スタッフの意欲向上やスタッフ間の親密な関係性作りを行ってきた。その結果、学生スタッフによる企画立案が行われるなど、活動の活発化につながった。

しかし、シフト時間の使い方や、学年や班などといった枠組みにとらわれない活発な意見交換という面では、いまだ課題が残っているといえる。実際に、前期末にはシフト時間の使い方について職員より指摘があったり、自分の所属している班以外の活動実態があまり分からないといった声が聞かれた。また学年や班、企画のコアメンバーといった枠組みに関しては、自分の所属していない枠組みに対し意見を言うことを避ける風潮がある。

そこで今回の夏研修では、「学生スタッフの士気向上」をテーマとして、コーディネーターや班活動などの見直しを通し、後期に向けてさらなる意欲の向上やスタッフ間の関係性作りにつながるワークを実施する。

具体的には、前期に行った来室者対応や企画といった学生スタッフの活動を振り返り後期に向けて学生スタッフの士気を向上させるため、『コーディネーターシフトの見直し』『学年や班、コアメンバーの有無といった枠組みを超えた活発な意見交換』に焦点を合わせたワークを実践する。

2. 企画概要

- (1) 日時：2022年9月15日（木）10時00分～17時00分
- (2) 場所：深草キャンパス22号館302教室
- (3) 内容：3つのワークで構成する。
それぞれのテーマは以下の通り。
 1. 『シフトを頑張ルンバ 協力すルンバ
振り返ルンバ』
テーマ：シフトの空き時間について考える

- ・前期のシフトを元にグループで意見を出し合い、出た意見を発表した。

2. 『ボラトーク！90分で話せる？聞ける？』
テーマ：立場を問わずより気軽に意見を言えるようにする

- ・グループでプライベートとボランティアの質問をそれぞれ考え、他のグループとローテーションに各々質問していくことで、立場の垣根を超えた話し合いの場を作った。

3. 『賢いレベルアップの仕方
～班の強みを鍛えよう～』
テーマ：なぜ班に分かれているかを再確認し、それぞれの班の強みを理解して班同士協力する

- ・所属する班を越えた活動について考えることを目的に、それぞれの班のメンバーをグループに1人以上所属した状態で、1つのテーマに各班何ができるのか意見を出した。



3. 参加者の声・得られた効果

- ・「言い合って聴きあう」関係を作ることはとても難しいことだと思うが、今回のワークで皆が意識できたと思う。これからの活動でも良い話し合いができるようになったら素敵だなと思った。
- ・さまざまな人の知らない一面を知れてよかった。学生スタッフとして、何が大切か話し合うことで、学生スタッフとしての意識について再確認できた

のはとても良い機会だった。

- ・前期の振り返りをして悪かった点を確認することができました。来室者の立場になって考えることはあまりないので今回のワークで考えることができて良かったです。今後のシフトに活かしたい。
- ・今後のセンターでの活動について考えることができて、とても良い機会になった。これから態度、対応をしっかりやっていけるようにしたい。
- ・各班の仕事内容を再確認や改善点なども知ることができたのでよかった。後期では研修で得た意見を取り入れながら活動した。また、各班で協力しながら活動できたらなと思った。
- ・自分の所属している班の仕事内容について、深く考えることができてよかった。これから何をしていくべきか何を考えていくべきか分かった。他の班のことも知れて新しい発見が多かった。



4. 学んだこと・今後の課題

- ・意見箱を使う、先輩と後輩でグループを分けて質問しあうなどのさまざまな案がたくさん出てきてよかった。研修では、学生スタッフの意識などといった目に見えない問題を取り上げることが多いので難しかった。今回の研修を今後活かしていきたい。
- ・当日精一杯でき、周りの反応も良かったので成功したと思うが、その後すぐにしっかりとした振り返りができなかったことに後悔している。次回の企画ではその日のうちにフィードバックを行いたい。
- ・ワークごとの情報共有の不足によりワーク間の座席移動がスムーズにできず、グループ分けに偏りが見られた。また、当日の欠席者の対応がスムーズに行えなかった。
- ・思ったより導入ワークで盛り上がっていたようで良かった。また、軽く考えられてしまうかもしれないと思っていたところで、想像以上に深く考えてくれたみたいでよかった。難しいテーマだったが意見が活発に出しやすいワークだった。
- ・全員が担当ワーク以外のワークミーティングに参加するなど、全体での進捗状況の確認ができており、全体でワークを作っていくことができた。

〈報告者：的場 美佳・小倉 未椰〉

事業名	ボラセンファミリー ～夏ワークをするとボラセンがへいわに…?!～		
活動日時	2022年9月14日(水) 10時00分～17時00分		
活動場所	瀬田キャンパス 2号館 多機能教室		
参加人数	学生スタッフ29名		
企画メンバー (学生スタッフ)	池本結希菜(社会2)	川口克基(社会2)	亀田暖人(社会2) 中村あや(社会2)
	成川雅妃(社会2)	小上馬怜美(農学2)	三枝亜伽莉(農学2)
	関 鉄仁(農学2)	東郷真穂(農学2)	萩原千絵(社会1)

1. 経緯・目的

瀬田キャンパスの学生スタッフは、先端理工学部・社会学部・農学部の3学部の学生が所属する。今年、新学生スタッフとして17名が加わり、46名のビッグファミリーへと成長した。

しかし、一部の学生スタッフから顔と名前が一致しないという声を聴き、学生スタッフ間、特に新学

生スタッフ間の交流ができていのかという疑問が上がった。

そこで、新学生スタッフの加入から、オリエンテーション研修、そしてコーデシフト等の前期を通した活動を全体で振り返る。また、オリエンテーション研修でコーデについて考える時間を持ったが、それを踏まえ、さらに発展したコーデワークを行う。

こうしたワークショップを通して学生スタッフ間

の親睦を深める中で、後期の活動が前期よりもより良いもの「ボラセンがへいわ」になるようなワークを目指す。

2. 概要

(1) タイムスケジュール

2022年9月14日(水) 10時00分～17時00分

10時00分 オープニング

交流ワーク

11時00分 コーデワーク

～お昼休憩(1時間)～

13時30分 前期振り返り

14時30分 後期目標決め

エンディング

(2) 交流ワーク

「サークルトーク」と「誰でしょうゲーム」を通して、学生スタッフ同士の交流を深める。学生スタッフの名前と顔が一致させ、お互いを知るきっかけをつくる。

(3) コーデワーク

コーデの仕方・流れについて考えることをテーマに行った。自分なりのコーデの流れを考える「コーデフローチャート」を作成した。そして、考えたフローチャートを元に実際に模擬コーデを行う「K-1グランプリ」を開催した。

(4) 前期振り返り

KPT法(自身の活動の中から「Keep」したいもの、「Problem」なものを考える。そして、「Try」として先に挙げた二つの内容から、これからの活動をよくしていくための、方針と解決策を考えるワーク)を使って前期の振り返りを実施した。課題を見つけ、これからの活かすアイデアを出すことで、メンバーとの関係性を強くし、チーム力向上を図る。

(5) 後期目標決め

グループになって意見を出し、それをまとめて後

期の目標を設定する。まず、瀬田センターの年度目標を再確認して、それを元にグループになって、個人目標と後期の目標を設定した。

【瀬田センター 後期の目標】

—積極的に人前に出て、つながりを大事にする—
内容：出会った人全員(ボランティア先の人など)と交流を行い、連携をする。学内・学外のサークルなどとの関わりを持つ。コーデワークのフィードバック・模擬コーデを行い、人前に積極的に出る。

3. 参加者の声・得られた効果など

夏ワーク全体を通して、グループワークを多く盛り込んだ内容であった。また、グループのメンバーもワークごとに入れ替えた。加えて、冒頭の交流ワークでの簡単なゲームなどを通して、楽しく、気軽な雰囲気ができた。そのため、様々な学生スタッフとの交流や意見交換を促すことができた。参加した学生スタッフからの評価が好評であったことから、夏ワークの内容は学生スタッフにとって有意義なものであったと言える。

以下、参加した学生スタッフの感想。

(1) 交流ワーク

サークルトークは最初のアイスブレイクにはピッタリで、軽く緊張などをほぐせてよかった。その後の自己紹介当てゲームはみんなの意外な一面を知れたり、あまり知らなかった人の情報を聞くことができて面白かった。

(2) コーデワーク

先輩のコーデの様子を、自分が実際に来室者目線で見れたのがすごくよかったです。自分のボランティアに対する知識不足も痛感しましたし、先輩方みたいに楽しいコーデができるようになりたいと思います。

(3) 前期振り返り

KPT法を活用することで、続けていくべき良かったこと、課題点、今後どうしていくかを客観的に考えることが出来た。

(4) 後期目標決め

自分の班では、やりたいと思ったことなどを考えるだけで行動につながっていないということが共通の問題意識がありました。そこで、一歩踏み出すチャレンジを提案しました。

(5) 全体を通して

いろんな人と向き合って話すのはやっぱり大事な、と思いました。お互いの距離も近くなったと思いますし、誰でしょうゲームも面白かったです。終



始楽しく、コーデワークでも自分の中で新しい発見もありつついい一日が過ごせました。立てた目標を忘れずに後期も力を入れていきたいと思いました。

4. 学んだこと・今後の課題

【良かった点】

夏ワークの準備に関するミーティングを週1回で開催した。そのことで、夏ワークの全体像、目指す形を企画メンバーの中で形作ることができた。また、毎回ミーティングの議事録を作成し、企画メンバー間の情報共有を行った。もし、ミーティングを欠席しても、議事録を見直すことで話し合いに参加できる雰囲気を創り、企画メンバーの中のフォローシップを高められた。

リハーサルを行ったことで、本番までにワークの課題点を見つけることができ、大きな失敗をすることなく夏ワークを終えることができた。

【改善点】

夏ワークの準備に時間がかかってしまった。そのことで、リハーサルでの修正や企画メンバーの間での情報共有が十分ではなかった。

準備のスケジュールをしっかりと企画メンバーの中で把握し、それを意識しながら進めて行くことが重要である。

リハーサル直後の修正が多いことが分かった。リハーサルは早めに行い、リハーサル後から本番までのミーティングの頻度を増やす。そうすることで、問題点や修正点を議論し、共有する。本番までに企画メンバー間の認識の違いをできるだけ減らす工夫が必要である。

しかし、人間締め切りがないと頑張れないため、余裕を持った準備をどう進めるかが課題である。

〈報告者：東郷 真穂〉

事業名	春研修（深草） 疾風怒濤～いざ大海原へ！ みんなで創る新時代～			
活動日時	2023年3月23日（木）10時00分～17時00分			
活動場所	深草キャンパス22号館204教室			
参加人数	16名			
企画メンバー （学生スタッフ）	奥田真史（政策2） 八田知紗（経済2） 兒嶋 愛（政策1）	西林勇貴（政策1） 小倉未椰（経営2） 内田美羽（国際1）	富銅柊介（文学2） 長峰拓未（経営2）	的場美佳（文学2） 鶴田優斗（法学1）

1. 経緯・目的

春研修の目的は、この1年間の学生スタッフとしての活動を振り返り、次年度の活動に活かしていくことである。新型コロナウイルスの影響もあり、規制が続く中での活動であったが、オリエンテーション研修や夏研修を実施し、学生スタッフの意欲向上や親密な関係性を築けるよう取り組んできた。しかし、現状の課題としてミーティングの参加率や学生スタッフ同士の交流の機会などが挙げられる。

そこで春研修を通して、これらの課題に関して考えることに加え、この1年間の活動を振り返り、活動の中での課題の整理とその課題に対する改善策を考える。そして、センターに所属し活動する中で、多くの学生スタッフが能動的に行動し、成長できる活動環境に繋げる事を目標とした。

2. 概要

4つのワークで構成した。内容は以下のとおりである。

○実施事項

10時00分 オープニング

10時05分 ワーク1.「省みる過去 紡ぎ出す未来」

目的：今年度の活動について、写真を用いながら振り返り、全体と個人の視点からセンターの活動を把握する。

(1) アイスブレイクを兼ねて、各テーブルに置かれたセンターに関する写真（新歓・オリテ・夏研修・龍祭・個人で参加したボランティア）を、それぞれの行事かグループで相談して振り分ける。また、その際にその行事について考えてもらい発表する。

(2) YWT（Y：やった事、W：分かった事、T：次にする事）シートを使って振り返りを実施した。

また、その情報を学生スタッフ同士で共有して、今後の活動に活かしていくことを目的に実施した。

11時30分 ワーク2.「要するに It's all about team work」

目的：他己紹介や共通点探しなどを通して、回生に関係なく学生スタッフ同士の親密さを深めることを目的に交流を行う。

- (1) 4人程度のグループに分けて、各グループでのユニークな共通点を探すことを通して、学生スタッフ同士の交流を深めた。
- (2) 2人1組のペアになり5分間ずつ時間を取り、お互いに質問する。そして、相手について知った事をまとめてグループに1分間で紹介する他己紹介を行った。



13時00分 お昼休み

14時00分 ワーク3.「これが理想のミーティング …ってコト!？」

目的：より良いミーティングにするための方法を考える。具体的には、リアクションの重要性を再認できるようなワークや、ミーティングの現状と理想について分析し、良い点と改善点について考えるワークを行った。

- (1) まず初めに、リアクション力に焦点を当てたアイスブレイクを行った。2人1組でペアを組み、話し手が1分間話す間に、聞き手がリアクションを取る場合と取らない場合の2パターンを行った。その際の、話し手の話しやすさの違いからリアクションの重要性を確認した。
- (2) 個人と全体の観点から理想と現状のミーティングについて分析を行った。また、現状のミーティングを理想に近づけるために何が必要なのかを話し合った。

15時20分 ワーク4.「有言実行 教えて?あなたの目標!」

目的：今年度の活動を振り返り、交流やミーティン

グについてのワークを通して、来年度の各個人の目標を発表する。

- (1) まず初めに、理想のセンターについて考えた。次に、現状のセンターの良い点と改善点を書き出した。そして、現状のセンターを理想に近づけるための各個人の目標と周囲に協力してほしい事を書き出し、1人1分間で発表した。

16時40分 クロージング&写真撮影

コアメンバーと職員からの挨拶後、全体で写真撮影を行い終了。



3. 参加者の声・得られた効果など

終了後に Google フォームを使用してアンケートを行った。具体的には、春研修全体に加え、各ワークの感想を集めた。春研修全体と各ワークの感想から、今回の春研修は全体と個人の視点からそれぞれ考える良い機会となり、満足度・充実度の高い研修になったことが窺える。

<春研修全体の意見・感想>

- ・センターの活動について考える良い機会となった。
- ・他の学生スタッフと交流出来て良かった。
- ・「新しくコアをやる」「責任ある立場になる」「チームを引っ張る」「サポートする」といった多くの挑戦している姿勢が見られて良かった。
- ・時期的に他の企画などと被っていたが、細かいところまでしっかりと考えられていた。
- ・時間配分なども絶妙で良かった。
- ・ワーク中のコアの動きや、スライドやワークシートの見やすさなど細かい部分のレベルが高かったように感じた。

4. 学んだこと・今後の課題

<学んだこと>

- ・ワーク作成前に、大まかな流れやスケジュールを組み立てることで、後から付け足しや考え直しを

減らせると感じた。

- ・本番前に、コアメンバーにワークを受けてもらう事で説明不足の点などを確認できるので重要だと思った。
- ・余裕をもって取り組むためにも、より早く準備に取り掛かることが大切だと感じた。
- ・センターの課題に関して、様々な立場から考えることが出来て良かった。
- ・アイスブレイクを行うことで雰囲気や和み、話しやすい環境をつくることが出来た。また、より交流を深めることに繋がったと感じた。

<今後の課題>

- ・事前に、当日使用する教室の机やスクリーンの状況などを確認することが重要だと感じた。
- ・終盤に近付くにつれて、参加者の疲れが見えてき

たため、もう少し休憩を取り入れても良かった。

- ・昼食後は、参加者が眠たそうだったので頭を使うワークを午前に入れてみても良いかと思った。
- ・リハーサルの際に、他のメンバーに内容が分からないようにするため、思うようにリハーサルが出来なかった。同じワークのメンバーだけでも、もっと入念に準備できれば良かった。
- ・各ワークで考える時間を多くとりすぎていたこともあり、終盤には雑談の時間になっていた場面もあったため、時間配分を臨機応変に調整できれば良かった。
- ・個人のパートで、問いかける部分などをより自然にできるように詰められなかった。

<報告者：奥田 真史>

事業名	春ワーク2023——「次元の異なる新歓活動」へ
活動日時	2023年3月10日（金）10時00分～17時00分
活動場所	瀬田キャンパス 2号館 多機能教室
参加人数	21名
企画メンバー	池本結希菜（社会2） 亀田暖人（社会2） 川口克基（社会2） 中村あや（社会2） 石川拓海（先理2） 蔵本千優（社会1） 小橋未沙（社会1）

1. 経緯・目的

コロナ禍により様々な行事、イベントが中止されてきた。しかし、2022年度は制限の緩和により、龍谷祭などの行事やイベントを実施するといった大きな変化があった。そのため、以下のことを目的に春ワークを行う。

- ・年間で行ったことを振り返り、2023年度の活動をより良くする。
- ・新学生スタッフを迎えるため、新歓活動について共通認識を持ち、活動を全体で考える。

2. 概要

3つのワークショップを行った。

(1) 振り返りワーク

2022年度の「他の学生スタッフの活動を知り、自分の活動につなげる」をテーマに据えた。内容は①2022年度の活動を挙げる。②活動で良かったことを語る。③活動の失敗を語る。④感想を出し合う。⑤他の学生スタッフの活動から今後の自分の活動を考える。以上5段階のグループワークを行った。

(2) 2023年度目標決めワーク

事前に「2023年度の活動で注力すること」をボランティアコーディネーションの8つの役割から1つを選ぶという内容のアンケートを行った。その結果「つなぐ」が最多だったためテーマとした。

グループワークで「つなぐ」の事柄、具体的な行動を挙げ、他の役割との関係を可視化した。最後に、具体的な行動を絞り目標とした。

(3) 新歓ワーク

新入生歓迎行事（新歓）をテーマに、前半では、



まず所属する新歓チームに分かれ、活動について話し合い内容を全体に共有した。次に、チームの新歓での役割を再確認し共有した。最後に、それぞれの課題や悩みなどに対して全体で意見を出し合った。

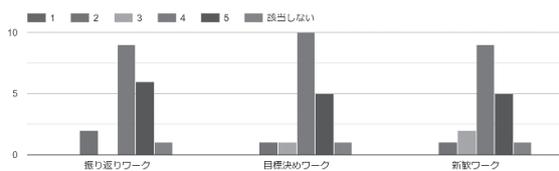
後半では、学生スタッフ役と新入生役に分かれ、学生スタッフ役が新入生役に対してセンター及び学生スタッフについて伝えるデモンストレーションをした。これを通して、新入生に対して、活動を伝える内容と方法を考えた。

3. 参加者の声・得られた効果など

事後アンケートを行い、18名（企画メンバー含む）から回答を得た。

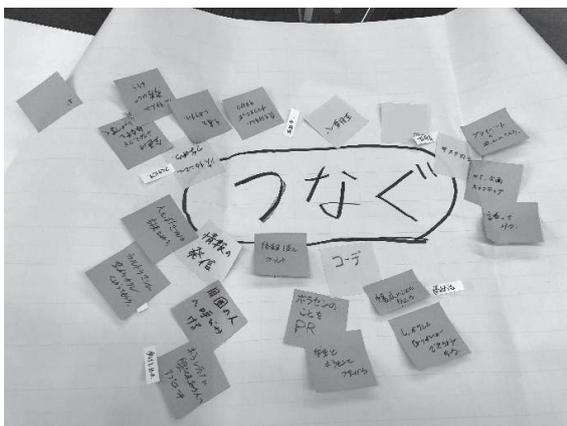
満足度を5段階評価（最低評価：1、最高評価：5）で質問した。全体の満足度は、5が13名（72.2%）、4が5名（27.8%）であった。3～1は0名（0%）であった。また、各ワークショップの満足度は5と4の回答が多かった。

この春ワークに関する以下の項目について、どのくらい満足されましたか。



また、参加者の感想は以下の通り。

- みんなの考えや意見を沢山聞くことが出来たので、新歓や来年度の学生スタッフとしての自分の活動に活かしていきたい。
- 新たな一年が始まる直前に目標決めてやるべきことを考えることができた。
- 周りの人がどんな企画、イベントに参加しているのか知ることができ、その中での改善点などを共有してもらえたので、それらを忘れずに新しいことにも挑戦していきたいです。（振り返りワーク）



- 他のチームの活動も積極的に取り組んでいきたい。（新歓ワーク）
- 新入生の立場になって、喜んで入りたいと思わせるような説明ができるよう自分の中で予め整理しておく。（新歓ワーク）

以上のように、ワークを通して、新たな意識や視点を得られ、新歓活動をはじめとした2023年度の活動への意識を高められたと考える。

4. 学んだこと・今後の課題

ミーティングを週1回行い、毎回スケジュールと各ワークの進捗状況を共有した。これにより、準備に余裕ができ完成度が高くなった。しかし、一部の作業が1人に集中し、連携が取れなかった。ミーティングの仕方を工夫すべきであった。

リハーサルを本番10日前と4日前の2回行った。1回目に流れの確認、本番の資料を用いての説明をした。そして、不備の修正を行った。2回目では、全体を通しての確認と微修正をした。これにより企画メンバー内での理解が深まった。

実際のワークでは、企画メンバーが各グループに入るように割り振った。それぞれがグループ内で進行を務め、話し合いを円滑にした。また、テーマを絞って話しあいを行う工夫も行った。そのため、全体を通してスムーズな進行ができた。

今後の課題としては、3点あげられる。

- ①話し合いの時間を延長したことで進行が遅れた。「延長時間を全体に共有したほうが良い」との意見があった。
- ②グループワークの進め方、各グループ間の共有、発表の方法が明確に伝わらなかった。「使う付箋が分かりにくい」との意見があり、視覚的に理解できるセッティングにすることや、分かりやすく資料にまとめておくことも効果的だろう。「どこまで発表するのか、誰が何をやるのか等が時々曖昧」「説明後に質問ないか聞いたり、大事なところは口頭で2回説明するとわかりやすい。」との意見があった。
- ③グループワークに不慣れであっても参加しやすい雰囲気や内容になっているかの検討が不十分であった。参加しやすい雰囲気や環境づくりにも意識していきたい。

上記のような参加者からのアンケートやふりかえりでの意見を大切に、今後の活動につなげていきたい。

〈報告者：川口 克基〉